

拠点名称：災害など危機的状況でもヒト・モノ・ココロがつながる健康医療共創拠点

代表機関	順天堂大学	プロジェクトリーダー	隈丸 加奈子 順天堂大学大学院 健康データサイエンス研究科 教授
参画機関	千葉大学、山梨大学、群馬大学、福島県立医科大学、東北大学、長崎大学、麻布大学、岐阜大学 株式会社メディセオ、清水建設株式会社、株式会社大林組、セイコーソリューションズ株式会社、株式会社シード、株式会社ニコンソリューションズ、アマゾンウェブサービスジャパン合同会社（AWS JAPAN）、TIS株式会社、公益財団法人かずさDNA研究所、株式会社はくばく、NPO法人慢性疾患診療支援システム研究会、日本コントロールシステム株式会社、認定NPO法人シャイン・オン・キッズ、一般社団法人パンデミックレディ・コンソーシアム、一般財団法人地域産学官連携ものづくり研究機構、株式会社Agoop、株式会社両毛システムズ、エルスピーナヴェインズ株式会社、一般社団法人日本最適化栄養食協会、株式会社Sansei、株式会社ワイ・シー・シー、株式会社クレスコ、EP山梨株式会社、東京都、文京区、山梨県、南アルプス市、群馬県、太田市		

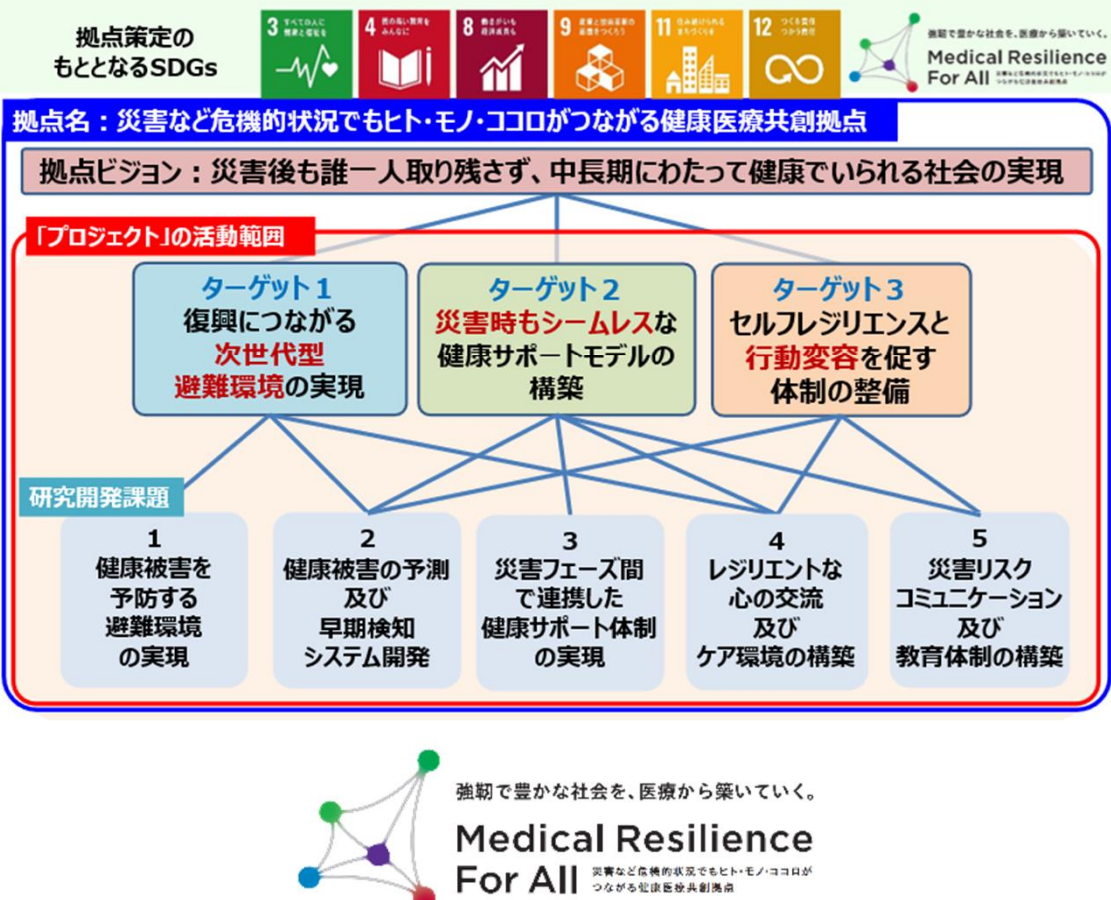
プロジェクトの概要

【背景】 災害など危機的状況が発生すると、急性期の直接的な健康被害に加えて、既存疾患の悪化、ストレス性疾患の発症など、被災者には中長期に渡って二次的な健康影響があることが明らかとなっている。

【拠点ビジョン】 災害など危機的状況にであっても誰一人取り残さず、二次的な健康被害を防いで中長期にわたって健康でいられる社会を築く。

【ビジョン達成のための3つのターゲット】

- ターゲット1：復興につながる次世代型避難環境の実現**
中長期的に二次的な健康被害を防ぐ避難環境を実現する。
- ターゲット2：災害時もシームレスな健康サポートモデルの構築**
急性期から復興期に至るまで一貫した健康支援体制のモデルを構築する。
- ターゲット3：セルフレジリエンスと行動変容を促す体制の整備**
住民一人一人が、災害時に健康被害が最小限となる行動を自ら取る社会を築く。



■ SDGs

SDG3

SDG4

SDG8

SDG9

SDG11

SDG12

拠点名：災害など危機的状況でもヒト・モノ・ココロがつながる健康医療共創拠点

DMAT等災害
急性期医療能登半島地震や
ウクライナ情勢など
危機的状況発生

拠点ビジョン：災害後も誰一人取り残さず、中長期にわたって健康でいられる社会の実現

「プロジェクト」
の活動範囲

■ ターゲット

1. 復興につながる
次世代型避難環境
の実現2. 災害時もシームレス
な健康サポートモデルの
構築3. セルフレジリエンス
と行動変容を促す体制
の整備

■ 研究開発課題

1. 健康被害を
予防する避難環
境の実現

- ・中間目標（3年目）
基盤となる技術の開発
- ・中間目標（5年目）
技術の妥当性・信頼性検
証
- ・PoC達成目標（7年目）
小規模実装実験
- ・最終目標（10年目）
健康被害を予防する避難
環境の規格化と実装

2. 健康被害の
予測及び早期
検知システム開発

- ・中間目標（3年目）
基礎的技術の開発
- ・中間目標（5年目）
小規模実証・実装実験
- ・PoC達成目標（7年目）
大規模なコホート等による実
証実験
- ・最終目標（10年目）
健康被害の予測及び早期
検知システムの規格化と実
装

3. 災害フェーズ
間で連携した健康
サポート体制の
実現

- ・中間目標（3年目）
連携計画およびハイリスク者
捕捉方法の確立
- ・中間目標（5年目）
連携モデルの他自治体への
外挿
- ・PoC達成目標（7年目）
シミュレーションによる実証
- ・最終目標（10年目）
災害フェーズ間連携体制の
実装

4. レジリエントな
心の交流及びケア
環境の構築

- ・中間目標（3年目）
基盤となる技術の開発
- ・中間目標（5年目）
技術の妥当性・信頼性検
証
- ・PoC達成目標（7年目）
小規模実装実験
- ・最終目標（10年目）
災害後の心の交流及びケア
環境の規格化と実装

5. 災害リスクコ
ミュニケーション及
び教育体制の
構築

- ・中間目標（3年目）
基礎的な教育プログラム等の
確立
- ・中間目標（5年目）
一部地域での妥当性検証
- ・PoC達成目標（7年目）
参画自治体での実装
- ・最終目標（10年目）
複数地域で実装と国際展開

拠点名称：災害など危機的状況でもヒト・モノ・ココロがつながる健康医療共創拠点

代表機関：順天堂大学

プロジェクトリーダー：隈丸加奈子(大学院健康データサイエンス研究科 教授)

研究開発課題1「健康被害を予防する避難環境の実現」の目標		年度
中間目標1	基盤となる技術の開発	2027
中間目標2	技術の妥当性・信頼性検証	2029
PoC達成目標1	小規模実装実験	2031
最終目標	健康被害を予防する避難環境の規格化と実装	2034
研究開発課題2「健康被害の予測及び早期検知システム開発」の目標		
中間目標3	基礎的技術の開発	2027
中間目標4	小規模実証・実装実験	2029
PoC達成目標2	大規模なコホート等による実証実験	2031
最終目標	健康被害の予測及び早期検知システムの規格化と実装	2034
研究開発課題3「災害フェーズ間で連携した健康サポート体制の実現」の目標		
中間目標5	連携計画およびハイリスク者捕捉方法の確立	2027
中間目標6	連携モデルの他自治体への外挿	2029
PoC達成目標3	シミュレーションによる実証	2031
最終目標	災害フェーズ間連携体制の実装	2034

研究開発課題4「レジリエントな心の交流及びケア環境の構築」の目標		年度
中間目標7	基盤となる技術の開発	2027
中間目標8	技術の妥当性・信頼性検証	2029
PoC達成目標4	小規模実装実験	2031
最終目標	災害後の心の交流及びケア環境の規格化と実装	2034
研究開発課題5「災害リスクコミュニケーションおよび教育体制の構築」の目標		年度
中間目標9	基礎的な教育プログラム等の確立	2027
中間目標10	一部地域での妥当性検証	2029
PoC達成目標5	参画自治体での実装	2031
最終目標	複数地域での実装と国際展開	2034

拠点名称：災害など危機的状況でもヒト・モノ・ココロがつながる健康医療共創拠点

代表機関：順天堂大学

プロジェクトリーダー：隈丸加奈子(大学院健康データサイエンス研究科 教授)

